

伊那谷スケツキ

.....
～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第四十二回



前島久美

数年ぶりに梅雨らしい梅雨だった。そのため、ドロオイの繁殖には（正式名称：イネドロオイムシ）にとっては好条件のようでミゾゴイ米の圃場は彼らの被害にあって白くなってしまっている。ドロのように見えるのは自分の糞で、これを背負って害虫から身を守ったり、体を保温しているらしい。比較的寒冷な地や山間地に多く発生するという。稲が白くなっている部分が食べられた跡で、田植え直後の柔らかい稲の葉

を好んで食べる。これまでの観察によると梅雨に入って湿気が出始めると増えてきて、梅雨明けで日が照り始める7月中旬辺りには成虫になる時期と重なるのか食害は少なくなる。今年は彼らが大発生して、一面ほぼ葉を斑に白くしている。虫だけではなく草もこの天気で良く育つので右手で草をとり、左手にオニグルミ葉っぱを持ち、ドロオイを拭うという所作を繰り返す日々。環境とは良くした物で、この地域によく